自然農法の種子ユーザーリポート⑥

私はこんな風に使っています！

このコーナーでは、「自然農法の種子」を活用いただいている方々に焦点をあて、栽培や種子に対する思い、使用している自然農法品種についてご紹介します。

研究部 育種課

農業の大きな魅力はお日さまのもとで土や植物と向き合い、自然と親しむことにあるのではないかと思います。また、丹精込めて育てた作物を通して新たな人とのつながりが広がることも魅力の一つです。

第6回目となる今回は、自然と親しみたいという想いから農業を始めた長野県立科町在住の「ありがとう畑」真木美里さんを訪ね、取り組み内容や種子に対する思いについて伺いました。

自然の恵みに感謝したい

標高700mの長野県北佐久郡立科町。雄大な自然に囲まれたこの場所で「ありがとう畑」真木美里さんは有機栽培に取り組んでいます。以前は小諸市で就農していましたが、今年から立科町に移り住みました。就農して5年目となります。

就農する前は農業や食に全く関心がなく、東京で建築関係の仕事をしていました。ある日ふと、自然に近いところに行ってみたいと思い、それを実現するのが農業と思い、仕事を辞めて農家研修に入りました。就農する時は一人ではなく、仲間と一緒に就農したかった真木さんは、当時研修先で知り合った福井さんを説得し、研修終了後に二人で就農しました。

現在は畑6反、水田2反を耕作し、年間50~60種類近くの野菜を栽培しています。主な販売方法は宅配です。ホームページで自分達の活動を紹介していなくても、当初は知人に宅配をして、その後口コミによって広がり、今では顧客数は50軒近くになり更に、首都圏のレストランにも販売しています。

自然農法種子を利用したきっかけは以前の研修先で使用していたことで、その縁で自分達が就農した後も利用しています。そのほかにも一般の固定種や在来種を探して多数活用しています。理由は無肥料や施肥量の少ない栽培では自然農法種子や固定種が育てやすく、何より美味しいからです。特に自然農法種子のキュウリ、トマトは顧客にも味が良いと好評です。

育苗用土は踏み込み温床の落ち葉堆肥と畑の土を混ぜて使用しています。ポリマルチなどの資材は使用しておらず、土作りはエサにホルモン剤や抗生物質を使用していない鶏糞

カブなど年間 50 ～ 60 種類を栽培

「ありがとう畑」の圃場全景

秋晴れのさわやかな日差しを浴びて元気に育つ「新戒青菜」
ほどよく開いた葉と美しい緑色が特徴
←↓

↑心を込めて育てた「新戒青菜」を収穫する真木さん

や落ち葉堆肥を活用しています。いずれは無肥料での栽培を目指し、自家採種にも取り組んでいます。

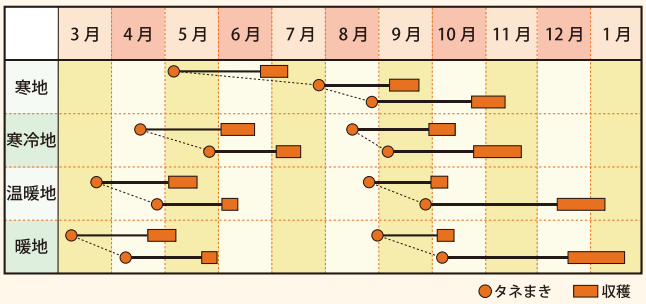
まごころこもった宅配

野菜は定期的に宅配しており、野菜の他に、栽培した野菜を工夫して加工した手づくり品も入れたりしています。何か一品でも惣菜があると反応がよく、評判が良いそうです。顧客の多くは首都圏の方が多く、食に対する意識の高い人が多いですが、東日本大震災の時、物流が一時途絶えたことがあったため、今後は地元のつながりも必要と考えています。

「ありがとう畑」の由来は、お米や野菜は、太陽と土と水が育ててくれるもので、その自然の恵みに感謝を忘れないように、「ありがとう」がたくさんある畑、という意味を込めてつけました。「人は、たいしたことはできませんから。太陽や土や雨になることはできません。タネを蒔いて、願うだけです。」と温かい人柄で真心こもった野菜を育てている方でした。

（原田　晃伸）

今号の紹介品種
コマツナ「新戒青菜」

群馬県のあるお寺で自家採種されてきたという黒葉系コマツナ。半立性（扇形に開く）の草姿で、軸はやや平たく濃緑色の葉は照りがあるのが特徴です。コマツナらしい風味に富み、おひたしや汁の実、雑煮の青菜として最適です。春まきと秋まきの両方で栽培できますが、秋まきの方が良品が収穫できます。

作型図